

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900023		
法人名	有限会社プラントス		
事業所名	グループホームみさと		
所在地	秋田県鹿角市花輪字寺ノ後42-10		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	令和3年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の重度化もあり、全体でのレクリエーションが難しくなっており、個別でのレクリエーション(外出等)を力を入れていたが、コロナ禍においてそれも難しくなっている。今年度の行事はホーム内で行えるものをおもてなしで参加して楽しめるものを行ってきた。家人からの差し入れ時(郵送等)の時に品物と写真を添付お送りしたり、面会制限のある中手探りでできる限りのことを行い、交流を持てるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・施設は住宅街に位置しており、近隣の住民や小中高生が気軽に訪れることが出来る環境にある。
- ・入居者が年々重度化傾向にある中、入居者一人ひとりに対する個別支援を重視して、その人らしい生活ができるように努めている。
- ・コロナ感染症防止のため、従来のように自由に外出する機会は減ったものの、季節ごとの行事を開催することで施設内においても楽しむことが出来るように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と 管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと話し合い、新たな理念を掲げて入居者様の対応にあたっている。	開所時の理念が現状にそぐわないものになっているため、現在の入居者に合った新しい理念を検討している。職員にアンケートを実施して、できるだけ早期に理念を掲げる予定。	利用者の過ごし方、介護職のかかわり方等を重視して、次の段階に向けた新しい理念を掲げることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、交流が難しくなっているが、野菜を頂いたり、今年から米の仕入れ先を地元の方に変えたりしている。	近隣の住民が野菜を届けてくれるなど定期的な交流が実施されている。また、小中高生が年に数回介護ボランティアとして訪れ、入居者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした 地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 伝え、地域貢献している	運営推進会議が開催できず、どのようにしてつながりを持って行ったらよいか苦慮している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度開催できておらず、報告等できていない。	市側の要望により、コロナ感染症防止のため、今年度は運営推進会議を開催していない。その旨を関係者に伝えている。	対面での会議が出来なくても、書面での報告や、メール及びファックスによる情報交換等、対面以外での交流を行うことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時、連絡をしたり受けたりすることはあるが最低限にとどまっている。	生活保護受給者の受け入れに関すること、緊急時の受け入れ等、必要に応じて随時相談する体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を行って周知してたり、コールマットなどの利用により、拘束のない介護を行っている。	身体拘束防止に関するマニュアルが整備されている。職員に対しては日々の入居者とのかかわりの中で身体拘束廃止の必要性を伝えたり、会議で話し合うなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通して、どのような行為が虐待にあたるのか周知し具体的にわかるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方もおり、今後も必要があれば活用できるように連携をはかっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、入居者様やご家族様と一緒に目をとおしてサインをいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話の中で意見や要望をお聞きできるようにしている。	入居者との会話を通じて要望等を聞いているが、はっきり伝えることが出来る入居者は少ない。家族からは利用料の支払いに訪れた際に要望等を聞くように努めている。	家族にとっては、身内が世話になっていることから、苦情や要望等を言いにくい立場にあると考えられる。家族が遠慮なく要望等を伝えることが出来るように工夫することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議にて意見交換をできるように心がけている。	毎月のユニット会議にて、業務内容の改善や入居者への接遇に関して様々な意見が出されている。提案された意見等を随時取り入れるなど、柔軟な対応に心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアパス制度を設けており、勤務年数でキャリア級や役職手当などで給与に反映されるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量 を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は社外研修にでることができなかった、リモートでの研修参加ができるような整備も必要かと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度行われていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との面談のほか、ご家族や居宅ケアマネさんと連携し、状況や要望を把握できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族様とお会いし、様々な会話の中から要望が得られるようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事やお茶の時間を共にしたり、一緒に活動できる時間があるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に受診の協力を得たり、家人の要望に応じて一緒に受診同行することもある。月1回のみさと通信では入居者様の日々の状況がお伝えできるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医を継続したり、親戚の方等の面会ができるようにしていた。	以前は入居者の要望を聞き、美容院、法事等に出かけるなどして社会的な繋がりを保っていた。現在は入居者の重度化に伴い外出の頻度は少ないが、要望に応じて支援する体制は整っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段いるリビングでは入居者様同士の関係性の変化に合わせて座席を調整したり、ユニット間で散歩の時などで声をかけあう場面がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人様の意向が汲めるように声かけをしたり、関わられるようにしている。	日常的な会話の中で入居者の思いを聴くように努めているが、年々、思いを把握することが困難な状況になっている。そのような場合は家族の意見を参考にして、本人本位の生活を支援できるように努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や居宅ケアマネさんから伺ったり、日々の会話から把握できるようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チャート記入やユニット毎の連絡ノート、ユニット会議などでスタッフ皆が把握できるようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様との会話の中で意見を聞けるようにしている。月1回のユニット会議で様子や意向を情報交換し、把握できるようにしている。	ユニット会議において、現場の介護職員の意見、入居前の生活歴、家族からの情報を共有している。寄せられた情報を参考にし、現在の入居者の状態に応じた介護計画を立案している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別チャートへの記入や、朝晩の引継ぎ時に送りをしたり、スタッフ間の連絡ノートを用いて情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のかかりつけ医を継続できるようにしている。家人やなじみの方との面会は現在制限されており行われていない。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を基本的には継続できるようにしている。薬局はホームからのFAXで配達をお願いしているところがあり、ほとんどの入居者様が利用されている、薬剤師さんと顔を合わせる機会があり相談等しやすくなっている。	入居前のかかりつけ医を継続できるように支援している。内服薬等は地域のかかりつけ薬局から配達していただき、薬剤師と顔が見える関係性を築いている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職の配置はないが、隣接するデイサービスの看護師に相談できる体制がある。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、医師からの説明時にはご家族様の同意を得て同席させていただくこともある。入院生活に家人が対応できない場合には、ホームスタッフが必要物品を届けるなどの支援も行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家人からの相談があったときや、入居者様の状況に変化があった際は説明をしたり相談を伺いながら、他施設へ申込を行うなど対応をしている。	入居者の状態が重度化し医療的ケアが必要になると、施設では対応できず、特別養護老人ホーム等へ移ることが多い。重度化への対応に関しては入居時に説明し、本人及び家族から同意を得ている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車の手配については各ユニットに掲示している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている、水害に対応した訓練を行ったこともあるが、今年度は実施していない。	施設は水害時の浸水想定区域に指定されており、毎年避難訓練を実施している。また、非常食を備蓄したり、発電機等を整備するなど、有事に備えている。	想定外の水害等に備えて、避難先の確保及び受入態勢に関して、運営推進会議で協議することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排せつの際は声かけやタイミングを工夫するようにしている。	入居者本人を尊重した対応に努めている。声掛けを工夫しながら、入居者の尊厳やプライバシーを損ねないように配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のかかわりの中で、入居者様の気持ちをはかたり、自己決定を促せるようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一定のメニューはあるものの、個別に対応できるように日々柔軟に支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新たに衣類を購入するときなどは、その方の好みに合わせて選ぶようにしたり、本人の意向をお伺いするようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものを作って食べるような行事を企画したり、季節に合わせた献立メニューの時はその話題を会話に取り入れるようにしている。	日々の献立や季節に応じた食事等に関して、随時入居者の希望を取り入れている。だまこもちの下ごしらえや竹の子の皮むき等、行事食の際は入居者も喜んで参加している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう 状況を把握し 、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量がわかるよう記入し記録している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、その方に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつの声かけ・誘導をしたり、夜間のみおむつ使用や、おむつ代が高額になる方について、おむつの種類を見直したりとスタッフで話し合い実践している。	入居者の排泄周期を把握して、随時トイレ誘導をしている。入居者個々の尿量に応じてパッドの種類を変えるなど、個別的な排泄支援に取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したり、かかりつけ医と相談しながら内服薬の調整を行うようにしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望や、タイミングをみながら入浴していただけるように声かけをしている。	週二回の入浴を基本としながら、入居者の要望に応じて回数を増やしたりしている。夏場は希望によりシャワー浴にするなど、柔軟に対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きなタイミングで休んだり、様子をみながら休息できるように声かけをしている。就寝前は好きなテレビをみたり、夜勤スタッフと会話されたり、自由に過ごしていただいている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時はスタッフに周知できるよう申送りをしたり、連絡ノートに記入したり、薬箱に記入したり、スタッフ皆が把握できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物たたみなどを無理なくやっていたりしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は個別レク等を積極的に行っていたが、今年度、外出が限られており、受診時程度の外出にとどまっている。	今年度はコロナ感染症防止のため、全体的な外出は控えている。入居者から要望があれば随時外出支援する体制は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布や現金をもち、希望時には自販機でジュースを購入できるようにしたり、事務室でおこづかいをお預かりしており、希望があれば都度購入できるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようにしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や飾りつけで季節の変化をつけたり、リビングから中庭をみることができ、季節の変化を感じたり会話のきっかけになっている。	冬期間は室内の乾燥に備えて除菌を兼ねた加湿器を使用している。採光のための中庭は各ユニットから眺めることができ、室内にしながら季節を感じることができる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、畳の小上がりなどで、リビングの中でも他の空間ができるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅で使い慣れたものや大事なものなどを自由にお持ちいただいている。家人からの手紙等を壁に貼ったり、自由に飾っていただいている。	居室内にはベッドとクローゼットがあらかじめ整備されている。入居者は自宅から使い慣れた家具、家電製品、生活用品等を自由に持ち込むことができ、従来の生活を継続している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に合わせて、居室やトイレに目印をしたり、混乱のないように貼り紙をすることもある。		